

伊吹そば種子の安定生産に向けた 獣害柵の設置による被害軽減

湖北農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

GI(地理的表示)認証を取得している「伊吹そば」は、近隣にそばの他品種が栽培されていない米原市甲津原と上板並の2集落が種子生産を行い、品種特性の保持と産地維持の重要な役割を担っています。しかし、中山間地域であるため獣害が多く、収量減の大きな要因となっています。そこで、ワイヤーメッシュ柵(以下、WM柵)や電気柵と組み合わせた獣害柵の設置を支援しました。

【普及活動の内容】

(1)WM柵設置の現地指導

甲津原集落では、シカ対策としてWM柵の設置作業に向け事前にはほ場を確認し、作業スケジュールと設置力所について助言しました。

作業当日は、効果を高める設置方法と設置後の保守管理のポイントについて指導しました。作業を進めながら説明を行ったため、理解を深めることができました。

(2)展示ほの設置と電気柵施工の実演会を開催

上板並集落では、サル対策としてWMに電気柵を併設した柵の施工および保守点検作業の体験を目的に、展示ほを設けました。電気柵の施工には営農組合員6名が参加され、県獣害アドバイザーから保守点検作業について説明いただきました。



写真1 電気柵の施工実演会

【普及活動の成果】

甲津原集落では、被害面積の割合を5割から2割にまで削減できました。被害面積を更に減らすため令和7年には、約1haのほ場でWM柵が増設される予定です。

上板並集落では、展示ほの設置で営農組合員にその効果を実感してもらうことができました。この結果、電気柵の追加施工を計画的に実施されることが決まりました。

◎対象者の意見

シカによる被害は、ほとんど無くなり効果を実感できました。また、目標収量も達成できました。ただ、サルによる食害が目立つようになってきたので、今後も継続して支援をお願いします。(甲津原営農組合長)

展示ほの設置で、組合員に電気柵の併用効果を実感してもらうことができ、ありがたかったです。種子の増産へ、意欲の向上を図ることができました。(上板並営農組合長)